

国立大学法人大分大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

大分大学は、人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与することを基本理念としている。第2期中期目標期間においては、基礎的な学力に裏打ちされた高い専門知識とともに、柔軟な思考力と創造性を身に付け、知識基盤社会で活躍できる自立した人材の育成等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、高大接続教育事業の充実、学生の幅広い視野の育成に向けた大分県内9つの高等教育機関の単位互換の平成26年度からの開始決定等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(機能強化に向けた取組状況)

学長、理事、副学長（教育改革担当）及び学部長・研究科長からなる「機能の再構築・強化に係る検討委員会」を設置し、新たな教育研究組織の設置や実践的指導力を有する教員養成に係る学部・大学院構想等全学的な組織改革を取りまとめ、「大分大学の改革の方向」として組織改革案を示している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 男女共同参画推進室を設置し、「男女共同参画キャリア部門」、「両立支援部門」、「男女共同参画広報・地域連携部門」の3部門に35名の委員を配置する体制とするとともに、事務組織に男女共同参画推進支援係を新設するなど、男女共同参画推進体制を整備している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 8 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 附属病院において患者の個人情報記録された USB メモリーを紛失する事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 12 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 24 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 教員が高校生向けに学問を平易に紹介する「チャレンジ講座」について、遠隔中継先を 6 校から 12 校に増やしたほか、高大接続コーディネーターが高校での受講生増加に向けた取組を行うなどにより、計 16 回（文系 8 回、理系 8 回）の講座で、3,129 名（対前年度比 1,093 名増）が受講している。
- 「地域力を生む自立的職業人育成プロジェクト」において、NPO 法人や地域の企業等と連携し、インターンシップを組み込んだ授業を実施したほか、学部必修授業の一

部にキャリアカウンセリングを組み込んだ授業を実施するなど、キャリア教育の充実を図っている。

- 「とよのまなびコンソーシアムおおいた」を構成する大分県内9つの高等教育機関が、特色ある授業科目を相互に開放することにより、学生の幅広い視野の育成及び学習意欲の向上を図ることを目的として、単位互換協定を締結し、平成26年度は、12科目を単位互換科目として設定することとしている。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 軽度認知機能障害対象のPET臨床研究、新規開発のプロピペリン経皮吸収薬のFirst in Human試験、医師主導治験を実施するとともに、大分県下医療機関の臨床研究ネットワークである「豊ネット」を活用した疾患ネットワークの整備を行い臨床研究及び治験を推進している。

(診療面)

- 防災体制の構築、大規模災害時の診療体制の確保のため、平成25年4月に救命救急センター棟に災害対策室を設置、重症外傷、広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒、脳血管障害、虚血性心疾患の救急患者の受入れ、看護師の増員、各診療科との連携等診療体制を整備したことにより、平成25年10月、大分県から高度救命救急センターに指定され、高度な医療の提供を行うとともに救急医等の養成、研修医・学生の教育に役立っている。

(運営面)

- 専門看護師、認定看護師を対象としたコメディカル研修経費を配分することにより、対象者には資格継続に必要な研修受講を推奨した結果、13名がコメディカル研修経費を活用して研修を受講している。